

(本メールマガジンは、これまで日越大学構想に関するセミナー・会議等に参加された方や、名刺交換させていただいた方々にお送りしております。)

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として新たに設立された大学です。2016年9月にベトナム・ハノイで開校しました。現在修士課程に約150名の学生が在籍し、日本語と英語を学び、MBA、公共政策、地域研究、ナノテクノロジー、環境工学、社会基盤、気候変動・開発の各専攻プログラムで勉強しています。

皆さん、こんにちは！日越大学構想・国内支援事務局です。

本メールマガジンでは、毎月1回、日越大学の近況や日越大学を取り巻くベトナムの状況について、読者の皆様にお届けいたします。このメルマガを通して、もっとたくさんの方に日越大学のことを知っていただきたいと思います。

【今月のトピックス】

1 日越大学ニュース

・第2回理事会の開催

1月12日、日越大学ミーディンキャンパスにおいて第2回日越大学理事会が開催されました。「日越大学の2030年までの発展戦略の方向性」や「2020年までの全体計画と2018年度計画」等の議題を中心に、日本・ベトナム双方の各理事による活発な議論が行われ、日越大学の将来を見据えた貴重且つ有益なご意見をいただくことができました。本理事会で議論された内容を踏まえ、今後、日越大学では、詳細且つ具体的な発展戦略及び全体計画を策定する予定です。

・オープンキャンパスの開催

以下のFacebookページに掲載されていますので、ぜひご覧ください。

<https://www.facebook.com/jicavju/>

2 インターンシップ実施報告

日越大学では、民間企業、幹事大学等の協力のもと、2017年9月から2018年1月の間、第1期生6プログラム（気候変動・開発を除く）を対象としたインターンシップを日本及びベトナムで実施しました（企業管理は2月3日まで実施中）。そこで今号では、各プログラムのインターンシ

ップを振り返りつつ、その実施結果を以下に報告いたします。

(1) 地域研究プログラム

【ベトナム研究】

ベトナム研究の第1期生は、2017年10月から11月まで約1カ月間のインターンを通じ、①専攻に関する学問的な知識の収集、②日本企業の訪問、の2つの活動に取り組んできました。

①では、幹事校の東京大学を拠点にしつつ、東京外国語大学、昭和女子大学など関東圏の複数の大学や京都大学、大阪大学など関西圏の大学を数日ずつ訪問し、ベトナム研究の専門家による講義を受けた他、修士論文執筆に向けた資料収集や知識研さんを実施しました。②では、H.I.S や吉野家ホールディングス、関彰商事などを訪問し、日本企業における働き方を体感しました。学生たちは日本社会を実際に肌で感じ、各自の世界観を広げて帰国した様子で、将来の活躍が楽しみです。

【日本研究】

日本研究の第1期生5名は、2017年9月20日から2018年1月30日までの約4か月間、東京大学の三鷹国際学生宿舎に滞在し、同大学院聴講生として複数の講義を受けつつ修士論文研究に励んできました。なお日本研究のインターンシップは、ゼンショーホールディングスによる支援に基づいて実施されました。学生たちの修論テーマには、奈良時代の仏教僧の行基から現代日本の外交政策まで様々な分野が取り上げられました。4カ月の成果が発表された1月12日の研究報告会では、指導教官から厳しい質問や意見が述べられたにも関わらず、学生たちは毅然と受け答えを行うなど、研究者の卵としての成長を感じることができました。

(2) 企業管理プログラム

インターン期間中は幹事校の横浜国立大学で講義やゼミへ参加した他、修士論文の作成を進め、論理的な知識を身につけるだけでなく、企業・工場訪問を行うことで実践的な知識も身につけました。その他の主な学外活動として、学内のホームステイイベントへ積極的に参加して日本人家族との交流を深めるなど、大変充実した日々を送りました。

1月15日には、横浜国立大学の長谷部学長をはじめとした多くの先生方の出席のもと、日越大学との中継による修士論文中間報告会が開催されました。当日の様子が毎日新聞社の取材で取り上げられるなど、大変有意義な締めくくりとなりました。

(3) 公共政策プログラム

2017年9月26日から12月20日までの約3か月間、9名のインターン生は幹事校の筑波大学での講義の他、筑波サイエンス見学ツアー、関彰商事での実習、東京都庁・茨城県庁・つくば市役所訪問、2泊3日のホームステイ、筑波山登山、名古屋トヨタ工場見学など多様なプログラムを経

験しました。一方、ベトナム国内でインターンを行った3名の学生も、各自の研究テーマに即した研究機関や行政機関の実習先において、有意義なインターンシップを行うことができました。

日本から帰国した学生は、修士論文執筆のための資料収集及び分析が山場を迎えており、プログラムオフィスでは、修士論文執筆に関する質問のために集まった学生の熱気に包まれています。

(4) ナノテクノロジープログラム

ナノテクノロジープログラムでは、2017年10月1日の日本到着後、5名は関西（大阪大学4名、関西学院大学1名）へ、3名は東京（東京工業大学2名、お茶の水大学1名）へ移動し、ベトナム人指導教員候補と共同研究を実施している研究室において、3ヶ月間の修士研究を兼ねたインターンシップを実施しました。ベトナムでは計測できないデータの取得や新たな方法論の習得等、有意義な時間を過ごし、12月27日に帰国しました。帰国後も引き続き研究に鋭意専念しており、日本の文化や風土を体感するなど充実した3ヶ月間であったとの報告を受けています。

(5) 環境工学プログラム

環境工学プログラムでは、3名が東京（東京大学）、3名が関西（立命館大学2名および京都大学1名）にそれぞれ3か月間滞在しました。各自の研究テーマに応じて研究室の一員として受け入れていただき、日本の研究室における日常生活を満喫すると共に、修士研究に必要な知識・技術もしっかりと身につけ、一回りも二回りも頼もしくなってきました。

また、日吉、日本工営、島津製作所、FANCL など幅広い企業でのインターンも実施し、学生たちは大いに刺激を得たようで、研究や仕事に対する自覚が高まってきました。休日には観光地を訪れるなど日本文化も堪能したようで、学生たちは将来日本を再訪したいと口をそろえています。

(6) 社会基盤プログラム

社会基盤プログラムでは、第1期生7名中6名が2017年9月初旬から3ヶ月間来日しました。各自の修士論文の企画に沿って、1名が筑波大学、4名が東京大学本郷キャンパス、1名が東京大学生産技術研究所に配属され、修士論文研究のための文献レビューや講義受講、指導教員との打合せ、研究室の定期ゼミへの参加など、大変充実したインターンシップを行うことができました。

中でも、同じ研究室に在籍する日本人学生や留学生の学習・研究状況を間近に見て、学生が研究をどのように行うべきか明確に認識できるようになったことは、学生の成長に資する経験となりました。また、学生全員で余暇時間に地域の文化交流活動に参加した他、宿泊したJICA研修センターにおいて世界中から集まったJICAプロジェクト研修員と交流できたことは、かけがえのない経験となりました。また家庭の事情によりベトナムに残った1名の学生においても、ベトナム国内の

日系企業で無事に3ヶ月のインターンシップを終えることができました。

インターンシップを終えた第1期生は一回りも二回りも大きく成長し、日越大学学生としての自覚と誇りを高めつつ、自信をもって修士論文に向き合う日々を過ごしています。また、日本の文化や慣習に触れることで、日本に対する好感度、日本社会・日本企業に対する理解が格段に向上したように感じています。この場をお借りして、インターン生を受け入れていただいた大学・企業、指導教員など皆様方のご支援・ご協力に対し、日越大学一同、心より御礼申し上げます。

【お問合せ先】

(独) 国際協力機構 (JICA) 東南アジア・大洋州部内

日越大学構想・国内支援事務局 神田・新村

Tel: 03-5226-9065 E-mail: 1rtd3-vju@jica.go.jp

日越大学 HP <http://admission.vju.ac.vn/>

JICA HP <https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html>

日越大学 Facebook (ベトナム語) <https://www.facebook.com/vju.edu.vn/?fref=ts>

日越大学 Facebook (日本語) <https://www.facebook.com/jicavju/>

【メール配信停止・変更】

本メールマガジンの配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、お手数ですが、日越大学構想・国内支援事務局 (1rtd3-vju@jica.go.jp) までメールにてご連絡をお願いいたします。